



2025 TAJIMI JC

共歩愛郷

JCNEWS

Jan. 2025 JCI TAJIMI

地域と向き合い、まちと人との礎となれ

我々の行動がまちに助け合いの心呼び覚ます



【はじめに】

近年の情報通信技術の発達と浸透により、人々にとって欲しい情報を気軽に得られる社会になりました。また、様々な情報と簡単に繋がることができるようになったことで、人々は他者に頼らなくともある程度の悩みを自分で解決できる時代になりました。しかし、多くの情報によって自身が抱える問題を見る視点が増えてしまい、より生活に悩みを抱える人が多くなったと感じます。自分達が調べるだけでは解決できず、悩みを抱えて生活するしかないまちに、人々は住み続けたいと思うでしょうか。現在、地域の問題や課題を解決すべく、行政や地域団体が長きに亘って活動に取り組んでいます。青年会議所も同じく、地域の問題を解決し、住んでいる人々の幸せを願って発足し、今日まで運動を展開しています。ただ、我々は改めて向き合わなければなりません。「青年会議所しか無かった時代」から「青年会議所もある時代」へと変化した今、我々の地域における役割とは何か、ということです。既に様々な団体が地域で専門的な活動を進めている中、私達がやるべきことは何でしょうか。「明るい豊かな社会の実現」という壮大な理想を掲げる我々青年会議所は、これからの社会のためにも、彼らと連携し、人々と繋がり、自分達の役割を見直すことで、我々が地域から自然と頼られ、声をかけられる存在になっていかなければなりません。これからの社会における問題や課題はより複雑になり、一人でも向き合うだけでは簡単に解決することはできません。青年である我々が地域と人々を繋ぎ、頼られる団体になることで、いつまでも安心して住み続けられるまちを創り上げてまいります。

第71代理事長 坂崎 雄介

【地域から頼られる人材の育成】

近年、多様な価値観を認める時代になったことで、自分の感性を中心に物事を決められ、他者の考えや声を気にする必要が無い時代になりました。また、物や情報が溢れて便利になったことで、他者に頼らず生活できる世の中になりました。しかし、周囲と触れ合う機会が減ったことで、他者から頼られ、助け合うことを無意識に避けている人が増えたと感じます。そのため、人々は他者と頼り頼られる関係になることに消極的になってはいませんか。今後、多様性を認める社会が更に進んでいく中、私達が抱える課題がより複雑化するのを考えると、相談相手が見つからず、一人で困っている人々がまちに溢れてしまうのではないのでしょうか。そんな冷たいまちに人々は住み続けたいと思うわけがありません。

今、我々が求める明るく豊かな社会とは、同じまちに住む者同士、困った時に手を取り合い、悩みや問題を解決しながら、みなで一緒に地域を作り上げていける社会ではないのでしょうか。今こそ、我々は困っている一人ひとりに手を差し伸べ、周りから頼られるリーダーにならなければなりません。地域から頼られる人材になるためには、どんな困っている人に対しても真摯に向き合う意識が必要です。また、人の話に耳を傾け、相手を深く理解する力が必要です。そして、解決に向けて相手の状況を分かりやすく整理する力を持つことで、相手に解決の糸口を気づかせなければなりません。

次代の責任を担う我々が地域から信頼され、頼られる存在になることで、青年会議所の運動が地域の人々を安心させます。我々の行動によって、まちの未来を希望あるものにしてまいります。

【人の悩みを解決できる地域社会を目指して】

現在、この多治見市内には数多くの地域団体が存在しており、行政を始め、様々な団体が地域課題の解決に日々取り組んでいます。しかし、悩みを抱える人々は、自身の悩みを相談できる団体が地域に多くあると気づかず、未だ自分で調べることでしか問題を解決できないと思っはていませんか。専門的な活動を行っている団体に直接相談できれば、自身の悩みを早期に解決することもできるはずです。悩みを抱えた人々と地域団体に距離があつては、人々が安心して暮らせるまちだと本当に言えるのでしょうか。このまちを豊かで住みやすくしていくためには、悩みを抱えた人々と地域団体がもっと気軽に近づき、解決に取り組みやすい環境にしていく必要があります。そして、自分達が住んでいる地域の課題や悩みは、地域の中で解決できるまちにしていかなければなりません。

これからの青年会議所は、地域や人に寄り添い、人々の行動を支える存在であるべきです。そのためにも、我々は行政や団体がどんな活動をしているか地域の人々に分かるようにし、相談相手が数多く活動していることを伝える必要があります。そして、地域の諸団体と連携し、人々の課題や悩みを気軽に相談できる場を作り、地域の悩みを解決する機会を創出していかなければなりません。

今こそ青年会議所として地域のために活動する方々と悩んでいる人々とを結びつける行動を起こし、人々の悩みを解決できる暮らしやすい地域社会を目指してまいります。

【創立70周年】

多治見青年会議所は多治見・笠原の未来を想い、地域を良くするために立ち上がった56名の青年達から始まりました。彼らが当時描いていたまちの未来はどのようなものだったのでしょうか。経済が安定し、人々の生活がとても豊かなまちを創りたい、と考えていたと想像します。そして、自分達の運動がまちを豊かにしていくと強く信じていたと思います。交通安全運動や土岐川を美しくする運動、陶器まつりチャリティーセール、修道院保存運動、たじみ市民討議会、市民向け講演会など、先輩諸氏の強い想いによって数多くの運動が行われて70年、その歴史と功績は今の多治見市の基礎に繋がっていることは間違いありません。

多治見青年会議所が今でも存在し、市中の多くの諸団体の皆様と強い信頼関係で結ばれているのは、先輩諸氏の地域を愛し続ける想いがあつたからです。この歴史や功績に対し、今を担う責任のある我々は感謝と敬意をもたなければなりません。また、我々は、多くの運動を展開してこられた先輩諸氏と交流し、多治見青年会議所がどういった団体か理解を深める必要があります。そして我々は、自分達の行動でまちをもっと良くできると感じ、次の10年に向けて今何をすべきか、改めて考えていかなければなりません。

我々多治見青年会議所は、引き続き地域から必要とされる団体の一つとして、これからも地域をけん引する意識を持ち、仲間と熱い議論を交わし、時代に合わせた運動を続けてまいります。

【むすびに】

青年会議所での活動について、大変だ、時間が取られる、という声を聞くことがあります。しかし、それだけの労力をかけることで初めて見える素晴らしい景色もあるのではないのでしょうか。多くの人が活動する青年会議所は、言わば社会の縮図です。一人ひとりが役割を担い、言動を考え、責任をもって仲間と向き合う。仲間のことを想い、成長を最大化させるために意見をぶつけ合う。しかしそれは、忙しい生活の中で見えなくなっている自分自身を改めて気づかせてくれる大切な機会ではないのでしょうか。40歳までの限られた時間の中で、できる限りのことを全力でやり切ることが自ら成長となり、失敗も人生の大きな糧となります。青年会議所の本分は、まちづくりであり、ひとつづくりです。日々忙しい中で活動に参加している我々は、仲間同士向き合い、互いに助け合えるような組織にすることが最も重要です。そのためにも、個人的な考えや想いが先走るのではなく、組織として仲間の考えや想いを共有し合えるようにすることが大切です。また、青年会議所の運動を発信し、学びとやりがい溢れている組織であることをまちに広めていかなければなりません。主体性を持ち、成長するために共に助け合うことで、やりがいをもってJC活動に邁進できるような団体にしていきましょう。心からこのまちを愛し、自分達の未来のために自分達が行動する気概を膨らまし、一丸となって運動を展開してまいります。

執行部紹介



長尾有祐

(有)長尾造園

新年あけましておめでとうございます。本年度、副理事長を務めさせていただきます長尾有祐と申します。総務委員会は下支えをする役割として足元を固めるために何よりも出席率に拘ること、組織力を高めてまいります。また、我々とまちをつなげるための礎として情報発信も力を入れてまいります。副理事長として理事長を補佐し、委員会を導いていけるよう精一杯活動してまいります。1年間どうぞよろしく願いいたします。



佐藤裕基

石政佐藤石材(有)

新年あけましておめでとうございます。本年度、副理事長を務めさせていただきます佐藤裕基と申します。悩みを解決する地域創造委員会では、地域の悩みは地域で解決できる社会環境づくりをテーマに活動を展開していきます。多治見のまちに暮らす市民として、市民活動を推進している地域団体の距離を近づけるために、団体の認知度を高め、両者が直接触れ合う機会の提供を行ってまいります。副理事長として、委員会メンバー一人ひとりが活躍できるようサポートしてまいります。1年間どうぞよろしく願いいたします。



水野恵介

(有)石玉石材

新年あけましておめでとうございます。70周年記念運営委員会の担当副理事長を拝命した水野恵介です。本年度、多治見青年会議所は創立70周年という節目の年になります。本委員会では関係各位に感謝と敬意の気持ちを伝え、まちに活力を与えるよう記念式典と記念事業を開催します。この節目の年に私たちはどうあるべきかを見つめ直し、今後の運動を展開することで、これからもまちにとって欠かせない存在になれるよう邁進してまいります。



原 仁志

(株)ワンズホーム

新年あけましておめでとうございます。本年度、専務理事の職をお預かりします原仁志と申します。専務理事として、理事長を補佐するとともに、事務局の長として坂崎理事長の想いのもと展開される組織の活動内容と進捗状況を把握し、円滑な運営に心がけることで組織を下支えいたします。歴史ある多治見青年会議所がこれからも地域とともに発展していくよう全力で取り組んでまいります。1年間どうぞよろしく願い申し上げます。



山本将寛

ヤーマン 歯科矯正歯科クリニック

謹んで新年のご祝辞を申し上げます。本年度、副理事長の職をお預かりします、山本将寛と申します。地域から頼られるリーダー育成委員会では、情報が簡単に手に入り問題を個人で解決できる時代になった反面、個人で解決できない悩みを相談できる人が地域に減ってしまったように感じます。そんな今だからこそ、我々は今一度地域から頼られ、寄り添っていくことができるリーダーを育成してまいります。自身の学びに真摯に向き合う姿勢をメンバーに示すとともに、副理事長としてしっかりと委員会メンバーの成長の場となるように指導してまいります。1年間どうぞよろしく願いいたします

委員会紹介



茂木雄貴

(有)茂木商事

新年謹んでお喜び申し上げます。総務委員会委員長の茂木雄貴と申します。総務委員会では組織を下支えする委員会として、今一度足元を固めるために総会例会の出席率の向上を図り100%例会を達成し組織力を高めてより良い事業へとつなげてまいります。皆様、1年間どうぞよろしく願いいたします。



林 真右

(株)双葉葬祭

新年あけましておめでとうございます。地域から頼られる人材育成委員会、委員長林 真右です。本年度、当委員会は地域から頼られる人材になるために基礎的な技術を身につけることを目的としています。具体的には第一印象をよくする手法や、質問の仕方を学び、問題の要素を整理する力を育んでいきます。皆様これからの技術を習得し、地域から頼られる人材になれるように取り組みますので、1年間どうぞよろしく願いいたします。



松島雄平

(株)藤本組

新年あけましておめでとうございます。70周年記念運営委員会委員長の松島雄平です。当委員会では、多治見青年会議所の創立70周年記念に関わる事業およびLOMの渉外の職務を担当いたします。関係各位の皆様へ70年もの長きに渡り多治見青年会議所を支えていただいた感謝と敬意を伝えと共に、メンバーに歴史ある多治見青年会議所に所属する誇りと責任を自覚していただき、新たな10年に向けて方向性の確立を行ってまいります。1年間どうぞよろしく願いいたします。



竹内小百合

白ゆり 総合法律事務所

新年明けましておめでとうございます。悩みを解決できる地域創造委員会委員長の竹内小百合です。当委員会では、年間を通して、地域のために活動する団体と地域の皆様との距離を近づけるための事業を行ってまいります。実りある事業にするためには、皆様のご協力が必要不可欠です。1年間、どうぞよろしく願いいたします。

新入会員紹介



申もがな
大嶽 侑佑



オネスト保険サービス (株)
小栗 佳祐



メットライフ生命保険 (株)
加藤 真弥



東濃運輸 (株)
小沢 昌弘



株式会社マツタカ
高田小百合



メイ工業 (株)
高田 祐樹



REVEL多治見
林 晃右



有限会社フジ住設
藤田 大輝



Foresight株式会社
保母 隆史



CUT&GO!!
松井 昂輝



(株)グリーンエンジニアリング
三浦 将悟



株式会社 水忠
水野 貴文

出向者紹介

(公社)日本青年会議所 内部会計監査人グループ 監査人 山本将寛
(公社)日本青年会議所 東海地区協議会 監査担当役員 三和義幸
(公社)日本青年会議所東海地区岐阜ブロック協議会 防災レジリエンス構築委員会 委員 加藤賀裕
組織連携推進委員会 角野麻衣
アカデミー委員会 長縄龍哉
岐阜ブロック大会2025実行委員会 白木秀頼

日本青年会議所業種別部会 窯業部会 副部会長 谷口雄亮
窯業部会 常任委員 榎原 匠
窯業部会 委員 加藤賀裕
窯業部会 委員 坂崎雄介
窯業部会 委員 藤田悠吾
窯業部会 委員 吉田企貴
教育部会 委員 三和義幸
石材部会 監事 佐藤祐基
石材部会 常任委員 水野恵介
メディア・印刷部会 委員 角野麻衣